

平成28年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT28053 プログラム名 「目に見えない」哲学を、見て触って考えよう！



開催日：平成28年8月11日(木・祝)

実施機関：筑波大学

(実施場所) (人文社会学系棟 A101 会議室)

実施代表者：土井裕人

(所属・職名) (人文社会系・助教)

受講生：高校生6名、中学生11名

関連URL：

### 【実施内容】

本プログラムでは、人文学のなかでも抽象度の高さゆえに伝わりにくい哲学を取り上げ、実施代表者が科研費によって研究を進めている視覚化や可触化の成果を活用して、その面白さを中学生・高校生に伝えるように努めた。文献主体の人文学の研究を基にしながらも体験型のプログラムを組んだことにより、受講者に行った終了後のアンケートでは非常に高い評価を得ることができた。

#### ・プログラムを留意、工夫した点

ひらめき☆ときめきサイエンスの受講生はその大半が大学進学に当たって理系学部を選び、本プログラム受講生も人文系志望でないことが予想されたため、実施代表者の研究内容のうち理工系にも共有されやすいトピックを多く盛り込み、好評を得た。

人文系の研究のアウトリーチは得てして一方的な講義になりがちであるが、受講生に自ら活発な活動をさせるため、受講生自身の考えを大きな付箋紙に書き出してもらい黒板に貼り付け、グルーピングをしながら皆の考えを共有するようにした。

#### ・当日のスケジュール

以下のスケジュールを基にしながら、当日の参加者の状況により適宜変更を加えて本プログラムを実施した。午後の時間帯のみにしたのは当日に本学の大学説明会があり掛け持ち参加を想定したためだったが、実際には遠方からの参加者も呼び込める形となった。

12:40～13:10 受付

13:10～13:30 インタロダクション

13:30～14:00 講義「見えないものを考えるとはどういうことか？」

14:00～14:15 休憩

14:15～15:00 実習①「二次元から・三次元から」

15:00～15:45 実習②「考える」を拡張する」

15:45～16:00 休憩

16:00～16:30 ディスカッション

16:30～17:00 クロージング

## ・実施の様子

イントロダクション



科研費についての説明



講義



ワークショップ用の付箋紙記入



ワークショップ



ワークショップ後の解説



ヘッドマウントディスプレイで実習



3D プリンタでの実演



記念撮影



## ・事務局との協力体制

ひらめき☆ときめきサイエンスでのプログラム開催は実施代表者にとって初めてであったため、事務局からはきめ細かな支援を得て無事開催することができた。また、開催日が夏期休業直前であるとともに、科研費の研究そのものでないアウトリーチ活動には周囲の理解が得られにくいことを考慮し、事務局には過重な負担とならないプログラム実施を心がけた。

## ・安全配慮

酷暑の時期ではあるが室内での開催でありリスクは低いと思われたが、受講生だけでなくスタッフ全員が保険に加入した。なお、保険は通常の傷害保険だけでなく賠償保険にも加入して万全を期した。また、3Dモデルを立体視するヘッドマウントディスプレイは低年齢者の視覚への悪影響が指摘されているため、参加者の年齢を事前に確認しておくなどの安全配慮を行った。

## ・今後の発展性、課題

人文系の研究を志す中高生の参加を多少は見込んでいたものの、実際には理系の大学に進学して研究したいが人文系にも興味があるという受講生ばかりであった。その意味では、本プログラムが人文系の研究者の卵を見だし育てることにつながる可能性は薄く、理系の研究者を志望する小中在校生に広い視野と他からは得にくい思考法や発想を提供することに今後の発展性があると考えられる。これは未来の理系の研究者に高度な知性や感性を涵養するという意義を持つが、今回の受講生に行ったアンケートの記述結果からは、本

プログラムのような試みがこうした意義を十分に有することが確認された。

最後に苦言となるが、「ひらめき☆ときめきサイエンス」の名称そのものが理系限定で文系は蚊帳の外という印象を小中校生に与えているだけでなく、科研費の支給を受ける文系の研究者がプログラム開催するモチベーションを削いでいる印象があり、一考すべき課題であるように思われる。

**【実施分担者】**

(なし)

**【実施協力者】**       2   名

**【事務担当者】**

松崎 譲     研究推進部外部資金課・課長

塚本 和代   研究推進部外部資金課・係長